

# HIMALAYA

## ヒマラヤ

### No. 368



**2002 JULY**



**日本ヒマラヤ協会**  
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

## H A J 創立35周年記念ネパールヒマラヤ・トレッキング

35年前、あの素晴らしい「神々の座」を一人でも多くの人に見せて上げたい、観て貰いたい、との思いでH A Jが創立されました。35年の星霜を重ねる中で、H A Jに関わった仲間たちも3000名近くとなりました。時代が変わり、人が替われども荘厳な「神々の座」は太古のままです。35周年の節目を迎え、H A Jのカメラードと今一度あのヒマラヤへ還り、新たな活力を享受してみませんか。

70年代には考えられなかった“ジョムソン・マウンテン・リゾート”に滞在して、ダウラ、アンナプルナ、ニルギリ、ダモダール・ヒマラヤなどの山々を存分に堪能してみませんか！H A Jからネパールに精通している野沢井歩専務理事が同行します。奮ってご参加下さい。

### ジョムソン、ムクチナート・トレッキング

期日：2002年10月13日(日)～23日(水) (11日間)

料金：368,000

定員：30人

メ切：定員になり次第

資料請求：H A J事務局

[P 7 に H A J 創立35周年記念行事資金協力のお願ひがあります]

### 表紙写真

カンチェンジュンガ北稜上の第3キャンプ(7500m)からは、目の高さ  
にツイズ主峰(西峰)を望むことができる。

(文と写真：田辺 治)

## ヒマラヤ No.368

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. ヒマラヤ登山、日本隊50年の記録(1)            | 山森 欣一 |
| 4. 高齢者登頂リスト                       |       |
| 6. 年少者登頂リスト                       |       |
| 7. 2002年カラコルム登山計画一覧表              |       |
| 8. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・Books・ヒマラヤから〉 |       |
| 11. 新連載 ロー・マンタンの空、遥かなり(2)         | 高橋 照  |
| 17. 平成14年度 日本ヒマラヤ協会通常総会報告         |       |
| 24. 寸感・事務局日誌                      |       |

# ヒマラヤ登山、日本隊50年の記録(1)

— 山 森 欣 —

1999年春、山と渓谷編集部の大畑記者から「全くヒマラヤ登山を知らない人が、これからヒマラヤ登山を目指す時、参考に読まなければならない本を3冊挙げて下さい」と依頼された。

ご承知のとおりヒマラヤ登山関係には夥しい数の報告書があり、その中の一部は単行本として書店に並んでいる。

エヴェレスト、K2などヒマラヤのそれぞれの山の登山史を纏めたものとしては、深田久弥の名著「ヒマラヤの高峰」があり、登山史だけではなく執筆した当時の出来ごとなども書かれており大変面白い。また、日本の登山史を纏めた労作に山崎安治「新稿 日本登山史」と安川茂雄「近代日本登山史」があり、両著共その中でヒマラヤ登山について触れているが、重点は戦前の各動向とマナスル登山に置かれているし、いずれにしても取り上げられているのは、安川68年、山崎は84年までである。

しかし、我が国のヒマラヤ登山を纏めた書物が見当たらない。

何ごとも「歴史に学ぶ」ことが大切である。日本のヒマラヤ登山を理解する第一歩は、先ず日本の先人が歩んできたヒマラヤ登山の全体像を把握することから始めるべきであるのにその「通史」が無いのである。(因にこの時は、①ヒマラヤへの挑戦「今西錦司編」、②精鋭たちの挽歌「長尾三郎著」③五十歳からのヒマラヤ「石川富康著」の3冊を推薦した。)

前書きが長くなったが、日本隊が戦後1952年にマナスルに偵察隊を派遣してから21世紀初めの年である2001年で50年の歴史を刻んだことになる。この機会に日本の「ヒマラヤ登山50年」の「通史」を纏めておくことも益あることと思う。勿論完璧なものを纏めるには力不足であることは自認している。私なりの認識を元に通史の骨子を目指して纏めてみたい。勿論鈹と糊の作業であることをお断りしておく。それでもよく切れる鈹とよく付く糊は持っているし、貼る場所も心得ているつもりだが、なにぶんにも切り取るべき資料が不足している。諸兄の周りにそれぞれの登山隊にまつわるエピソードがあれば参考にしたく是非ご協力のほどお願いしたい。

## 〔 I 〕日本における戦前のヒマラヤ登山の周辺

今から100年ほど前は、日清、日露戦争を経て、やがてくる激動と繁栄の20世紀を直前にして日本全体は活気に満ちていたに違いない。

①1899年(明治32年) 河口慧海(31)は、ネパール・ヒマラヤの山々を見た。そして、同じ頃、四川と西藏を分ける巴塘のほとりに立ち

「のぞめども深山の奥の金沙江

つばさなければわたりえもせず」

と悲嘆にくれて詠んだ能海寛(31)は、果たしてミニヤ・コンカの雄姿を見たのであろうか。

②また、早稲田大学教授の長田秋濤が、フランスのUjfalvy-Boudon女史のゾージ・ラ越えやアスコレ行きを綴った紀行

「Voyage d'une parisienne dans 1 Himalaya occidental」を翻訳して、「ヒマラヤ山探険」として春陽堂から出版したのが1900年のことであった。これが日本における初めてのヒマラヤに関する本であった。(山416 織内信彦／高峰3-105)

③1914年(大正3年) 夏、慶応義塾大学の植有恒(20)は、同級の内田節二と上高地に入り清水屋で小島烏水(41)に会った。このことが切っ掛けで植有恒は、慶応に山岳部を設立させようと誓い、翌年、慶応義塾山岳会が誕生した。

④その設立について植有恒の相談相手になった鹿子木員信(34)は、1918年慶応義塾哲学科教授を辞任し、カンチェンジュンガ山群に分け入り、4,810mの黒カブァに登頂し、その体験談を帰国後の1920年に「ヒマラヤ行」として出版した。

⑤1921年秋、榎有恒がアイガー東山稜を初登攀した。榎は、次いで1925年、カナダのアルバーター(3,619m)に遠征し、初登頂に成功する。鹿子木のカンチェンジュンガ行や榎のアルバーター行に影響を与え支援したのは、山好きで知られた熊本の殿様、細川護立であった。

⑥1927年2月、インドでヒマラヤン・クラブが設立された。当時、インドに勤務していた慶応義塾OBの三田幸夫(27)は、各国のヒマラヤ登山の情勢を日本に伝え、日本での準備を強く促した。

⑦1924年11月、舟田三郎(25)は早稲田大学山岳部部報『リュックサック』第3号の巻頭に「アルピニズム」と題する論文を書いた。これが日本で使われた「アルピニズム」の初めである。(新稿)アルピニズムの勃興は、やがてヒマラヤへ登山への奔流に繋がっていく。大学山岳部やOBによるスキー登山、岩登り、厳冬期の岩や稜の登攀と続いたアルピニズムの実践はやがてヒマラヤへの渴望となっていく。

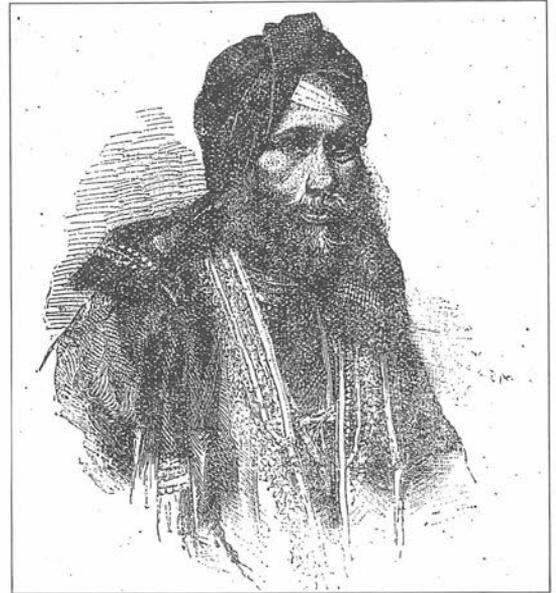
⑧1921年秋のアイガー東山稜の登攀に成功した榎は帰朝した後、1924年暮れ頃、霞ヶ浦の海軍航空隊に山本五十六を訪ね、ヒマラヤ登山の参考にするため、高々度用の酸素マスクを見せてもらった。(阿川・新版)海軍の航空は未だ草創期にあったが、日本全体の水準から見ればかなり高度の技術を持っていた。山本は海軍の航空推進派の重鎮であり、このときは霞ヶ浦で副長兼教頭であった。

⑨1927年と28年にカイラス、ナンガ・パルバットを訪れた長谷川伝次郎は、1930年(昭和5)11月、日本山岳会小集会(90名)で「ヒマラヤの旅」の講演を行った。この講演を聞いた立教大学の堀田弥一(21)は、3日間長谷川家に通い旅の模様を詳細に聞き「我々の冬山の経験で六千メートル以上の未踏の山を登頂できないことはない、と直感した」。

加藤泰安(19)もまたこの講演を聞いた夜、興奮のあまり眠れなかった。

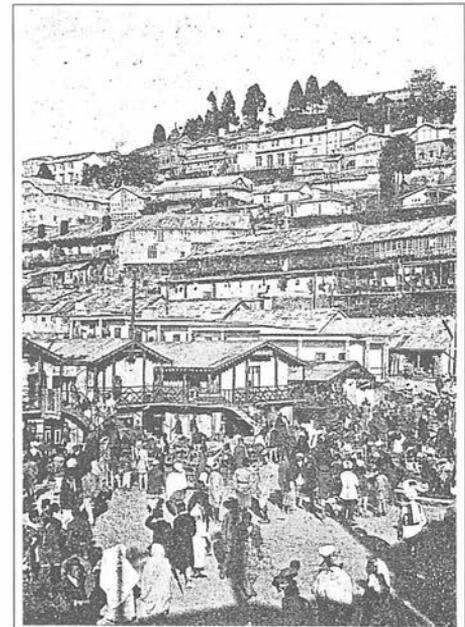
⑩1929年、ドイツ隊がカンチェンジュンガに挑戦し、1931年にパウル・パウアーによって書かれた報告書『Im Kampf um den Himalaya』が、出版された。この本を読んだ京都大学の今西錦司(29)らは、ヒマラヤを目指す同志の結集を計る必

#### ▼ [ヒマラヤ山探検] カシュミールの土民



要性を感じ、この年の5月24日、ヒマラヤ登山の団体としてのAACK創立発会式が行われた。そして、富士山で極地法登山訓練を行った。だが、AACKのカブルー、K2計画は結局日の目を見ることはなかった。

⑪こうした中、1936年秋、遂に日本から本格的なヒマラヤ登山が立教大学隊によって実現した。隊長は、堀田弥一(27)。隊員は、山県一雄、湯浅巖、浜野正男と大阪毎日新聞から竹節作太が派遣



▲ [ヒマラヤ行] ダージリンのバザー

された。山はインド、ガルワール・ヒマラヤのナンダ・コット (6,867m)。10月5日、アンツェリンと日本側5名全員が初登頂に成功した。

この成功に対してイギリスの著名なヒマラヤニストであるロングスタッフ (62) は、浦松佐美太郎 (36) に宛てた書簡の中で

『日本の登山家達が、ヒマラヤに登山するに當り、山の高さなどといふことを度外視した態度を示したことは、此の上もなく立派な見識を示したことであり、非常に嬉しいことである。ヒマラヤには、山として立派な山が数多くある。登山の対象として選ばれるべき、優れた山の数も多い。それ等を顧みもせず、ただ高さの高い山だけを目掛けて、我も我もとヒマラヤへ出掛ける此頃の風潮は、苦々しくも思はれる。八千メートルの山々へ、大變な数の人夫の群れを引きつれて、まるで戦争の様に押しかけてゆく様子は、馬鹿げた登山といふ他あるまい。』

と、立教隊を絶賛した。

⑫戦前の日本のヒマラヤ登山計画で実現したのは、結局立教大学隊だけであったが、他大学、団体が手をこまねいていた訳ではない。ヒマラヤ登山に辿り着くまでのアルピニズムの実践や変遷、各組織の動向については、安川茂雄著「近代日本登山史」(あかね書房)と山崎安治著「新稿・日本登山史」に詳しい。

以下に鹿子木が書き出版した「ヒマラヤ行」の一節を掲げた。当時のヒマラヤの知識の程度や表記など的一端を知ることができるだろう。

#### 鹿子木員信 [ヒマラヤ行] の一節

ヒマラヤ『雪の里』、漢譯佛典の所謂『雪山』は、概ね東經七三度、北緯三三度のパミール高原の邊に起り、始め東南に、中頃東に而して終に東北に走ること、約二千哩、ブルマ貫流の大河イラワヂ源頭の邊に盡き、以て印度の半大陸をその北方に限り、その天然の障壁を形成する大山脈である。而して此のヒマラヤの大連山は、濁りそのうちに、世界最高のチョモカンガ二九〇〇二呎の高峰を有するのみならず、二四〇〇〇呎以上の世界の高峰七十五峯は、悉く此のヒマラヤに集ま

てゐるのである。ヒマラヤの大は、最も善く、之れを他と較べると分かる。日本本國最高の富士は一二四〇〇呎ヨーロッパ最高のモン・ブランは一五七八〇呎であつて、僕が今度のヒマラヤ行中、僅五時間を費やしてゾリグリの石小屋から、その頂上迄往復した黒カブツに比べて、未だ五十呎ばかり低いのである。轉じて北米最高のマッキンレーは二〇四六四呎、南米最高のアコンカグアにして尚ほ、漸く二三三九三呎を數ふるに止まつてゐる。若し夫れ、カウカサスのエルブルツ (一八五一七呎)、中央アフリカのカリマンジャロ (一九七一五呎) 等に至つては、ヒマラヤに於いては少し有名なラ (峠) の高さに過ぎぬ。ヒマラヤは實に氷雪の國であると共に、偉大と崇高の無盡藏である。

此のヒマラヤ大連山は、之れを登山家の見地から見て、五つの中心に統ぶることが出来ると思ふ。即ち西より數へて先づ、世界第二の高峯ダブサン (K 2 若しくは測量者の名を取りてゴッドキンアウステン、二八二五〇呎) 及び世界最高の側面を露出し、従つて世界の山岳中、最高の偉觀を示すと稱せらるゝインダス左岸のナンガ・パルバット (二六六二〇呎) 等を含むカシュミア、カラコラムの群山、次にガルワール、クマウンのナンダ・デビ、グルラ・マンダッタの一群、第三に更に東してネバルに入りてドウラギリ (二六七九五呎)、而して第四に世界最高のチョモカンガ (若しくは、測量當時の印度陸地測量部長の名を取りてエエレスト、二九〇〇二呎) の群山、而して最後に、此のチョモランマカを東に隔ること僅かに六十三哩、北に西藏、西にネバルに境し、シッキム國の西北隅に割據する世界高峯の第三峯カンチェンジャンガ二八一四六呎の巨雄がある。

僕の第一のヒマラヤ行は、實に此のカンチェンジャンガに向かつて企てられたのである。僕の第一ヒマラヤ行は、即ちカンチェンジャンガ行に外ならない。

# 高齢者登頂リスト(7,000m以上の峰・50歳以上)

(2001年12月31日現在)

2002年3月28日 山森欣一調べ

順位	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	歳日
1	内田敏子	1931, 4,	ハン・テングリ	7,010m	2000,	6 9
2	平田恒雄	1935, 2,	チョー・オユー	8,201m	2000, 5, 12	6 5 100
3	荒山孝郎	1935, 10,	チョー・オユー	8,201m	1999, 10, 1	6 3 362
4	青木正次	1936, 5,	チョー・オユー	8,201m	2000, 5, 12	6 3 362
5	山本俊雄	1936, 5,	チョモランマ	8,848m	2000, 5, 19	6 3 312
6	加藤幸彦	1933, 1,	チョモラーリ	7,326m	1996, 9, 10	6 3 224
7	渡邊玉枝	1938, 11,	ムスターグ・アタ	7,546m	2001, 8, 12	6 2 264
8	奥克彦	1937, 1,	シシャパンマC	8,008m	1999, 9, 15	6 2 242
9	三角朗	1929, 10,	ハン・テングリ	7,010m	1992, 8,	6 2 275
10	田部井淳子	1939, 9,	ムスターグ・アタ	7,546m	2001, 8, 12	6 1 324
11	石川富康	1936, 11,	ガッシャーブルムII	8,035m	1998, 7, 22	6 1 242
12	白岩靖子	1938, 6,	レーニン	7,134m	1999, 8, 5	6 1 63
13	今野一也	1939, 4,	チョモランマ	8,848m	2000, 5, 19	6 1 43
14	野口道雄	1936, 9,	ニンチン・カンサ	7,206m	1997, 8, 18	6 0 336
15	関根孝次	1933, 10,	ムスターグ・アタ	7,546m	1994, 8, 19	6 0 323
16	三渡忠臣	1939, 8,	チョー・オユー	8,201m	2000, 5, 14	6 0 279
17	斎藤惇生	1929, 9,	シシャパンマC	8,008m	1990, 5, 21	6 0 254
18	×原田達也	1935, 4,	シシャパンマC	8,008m	1995, 9, 26	6 0 173
19	×土森讓	1937, 3,	スキル・ブルム	7,360m	1997, 8, 17	6 0 142
20	宇塚有友		ハン・テングリ	7,010m	1997, 8, 10	6 0
21	大内一成	1941, 8,	ガッシャーブルムII	8,035m	2001, 7, 10	5 9 341
22	桑原巖	1935, 11,	ダウラギリI	8,167m	1995, 10, 6	5 9 337
23	谷口正彦	1939, 1,	チョー・オユー	8,201m	1998, 9, 26	5 9 244
24	中島道郎	1930, 9,	シシャパンマC	8,008m	1990, 5, 21	5 9 242
25	日比栄子	1942, 6,	チョー・オユー	8,201m	2001, 9, 22	5 9 109
26	森山勇	1939, 10,	ガッシャーブルムII	8,035m	1998, 7, 22	5 8 288
27	近藤和美	1941, 11,	ブロード・ピーク	8,051m	2000, 7, 30	5 8 251
28	×根津皖一	1939, 12,	ガッシャーブルムII	8,035m	1998, 7, 22	5 8 206
29	青木丈夫	1943, 2,	ガッシャーブルムII	8,035m	2001, 7, 11	5 8 154
30	×小西政継	1938, 11,	マナスル	8,163m	1996, 9, 30	5 7 315
31	川原慶紀	1940, 11,	チョモランマ	8,848m	1998, 5, 20	5 7 182
32	吉野和記	1940, 10,	アンナプルナIV	7,525m	1998, 4, 8	5 7 177
33	大神田伊曾美	1944, 5,	ムスターグ・アタ	7,546m	2001, 8, 12	5 7 100
34	太田五雄	1941, 5,	ナムナニ	7,694m	1998, 6, 6	5 7 19
35	沢田幸子	1940, 12,	ムスターグ・アタ	7,546m	1997, 8, 16	5 6 258
36	嶋村美美江	1933, 1,	レーニン	7,134m	1989, 8, 16	5 6 200
37	池田錦重	1938, 11,	ダウラギリI	8,167m	1994, 10, 1	5 5 312

順位	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	歳日
38	蒔苗政義	1941,10,	リスム	7,050m	1997, 5, 11	5 5 217
39	我妻研一	1941, 2,	ムスターグ・アタ	7,546m	1996, 8, 13	5 5 174
40	鈴木延隆	1939, 1,	チリン	7,038m	1994, 7, 26	5 5 201
41	井上博之	1934, 4,	ハン・テングリ	7,010m	1989, 8, 15	5 5 116
42	安村淳	1946, 8,	チョー・オユー	8,201m	2001, 9, 22	5 5 29
43	野村昌男	1941,10,	ラトナ・チュリ	7,035m	1996,10,16	5 5 9
44	横山英雄	1942, 4,	ミニヤ・コンカ	7,556m	1997, 5, 2	5 5 6
45	我妻伊都子	1942, 2,	ムスターグ・アタ	7,546m	1996, 8, 13	5 4 177
46	藤井洋	1940, 3,	チリン	7,038m	1994, 7, 23	5 4 144
47	×広島三朗	1943, 3,	スキル・ブルム	7,360m	1997, 8, 17	5 4 142
48	鈴木孝雄	1938, 5,	チョー・オユー	8,201m	1992, 9, 20	5 4 125
49	松田謙介	1943, 5,	スキル・ブルム	7,360m	1997, 8, 17	5 4 91
50	燕昇司実	1942, 8,	ムスターグ・アタN	7,184m	1996, 8, 12	5 3 359
51	原田征史	1942, 9,	ムスターグ・アタN	7,184m	1996, 8, 13	5 3 337
52	服部功	1943, 1,	ムスターグ・アタN	7,184m	1996, 8, 17	5 3 205
53	宮川清明	1941, 2,	ムスターグ・アタ	7,546m	1994, 7, 26	5 3 157
54	酒井國光	1939, 4,	ムスターグ・アタ	7,546m	1993, 8, 18	5 3 115
55	中村進	1946, 1,	リャンカンカンリ	7,534m	1999, 5, 10	5 3 115
56	池田莊彦	1946,10,	ナンガ・パルバット	8,126m	1999, 7, 28	5 2 274
57	畠山正昭	1943, 2,	チョー・オユー	8,201m	1995,10, 1	5 2 219
58	佐藤淳志	1941, 4,	ハン・テングリ	7,010m	1993, 8, 12	5 2 133
59	田村正勝	1942, 4,	ムスターグ・アタ	7,546m	1994, 8, 18	5 2 118
60	遠藤京子	1938, 5,	サトパント	7,075m	1990, 8, 11	5 2 98
61	東野良	1944, 6,	チョモラーリ	7,326m	1996, 9, 10	5 2 80
62	倉井登代	1944, 8,	チョー・オユー	8,201m	1996, 9, 20	5 2 48
63	宮本義彦	1944, 8,	チョモラーリ	7,326m	1996, 9, 10	5 2 16
64	阿部明彦	1946,11,	プモ・リ	7,161m	1998,10,22	5 1 353
65	×日野悦郎	1940, 5,	シシャパンマC	8,008m	1992, 5, 6	5 1 346
66	飛田和夫	1946, 1,	ニンチン・カンサ	7,206m	1997, 8, 17	5 1 224
67	佐藤英樹	1948, 4,	チョム・カンリ	7,048m	1999, 8, 15	5 1 113
68	金子鉄男	1945,10,	ラトナ・チュリ	7,035m	1996,10, 8	5 1 9
69	西嶋鍊太郎	1942, 8,	ムスターグ・アタ	7,546m	1993, 8, 17	5 1 6
70	斎藤勤	1947,12,	ダウラギリ I	8,167m	1998, 9, 30	5 0 287
71	杉山義昭	1947, 7,	アンアプルナIV	7,525m	1998, 4, 18	5 0 279
72	高橋純一	1948,11,	リャンカンカンリ	7,534m	1999, 5, 10	5 0 189
73	×中込清次郎	1947, 2,	スキル・ブルム	7,360m	1997, 8, 17	5 0 172
74	真嶋花子	1949, 2,	ポベータ	7,439m	1999, 8, 11	5 0 189
75	平川宏子	1940, 2,	サトパント	7,075m	1990, 8, 11	5 0 167
76	天城敏彦	1947, 5,	ニンチン・カンサ	7,206m	1997, 8, 18	5 0 95
77	新郷信廣	1943, 3,	ピラミッド・ピーク	7,123m	1993, 4, 24	5 0 54
78	有永寛		ハン・テングリ	7,010m	1992, 8, 11	5 0
79	河内勲		ムスターグ・アタ	7,546m	1994, 8	5 0
80	加納隆		ムスターグ・アタ	7,546m	1997, 8, 11	5 0

# 年少者登頂リスト(7,000m以上の峰)

(2001年12月31日現在)

2002年3月28日 山森欣一調べ

順位	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	歳日
1	南洋祐	1972,12,	コルジェネフスカヤ	7,105m	1992,8,13	19235
2	広川健太郎	1960,2,	ダウラギリII	7,751m	1979,10,13	19248
3	小林茂幹	1977,2,	ラトナ・チュリ	7,035m	1996,10,18	19255
4	小林研	1959,11,	ダウラギリV	7,618m	1979,10,9	19330
5	花谷泰広	1976,8,	ラトナ・チュリ	7,035m	1996,10,16	2071
6	小西浩史	1962,3,	コルジェネフスカヤ	7,105m	1982,7,29	20136
7	藤田耕史	1969,1,	ムスターグ・アタ	7,546m	1989,5,30	20144
8	田島崇行	1977,2,	ガッシャーブルムII	8,035m	1997,7,14	20155
9	川口秀樹	1974,1,	チリン	7,038m	1994,7,19	20172
10	長町祐志	1965,2,	コルジェネフスカヤ	7,105m	1985,7,29	20177
11	三谷統一郎	1958,3,	アンナプルナS	7,219m	1978,10,16	20200
12	小林剛	1973,12,	ムスターグ・アタ	7,546m	1994,8,19	20246
13	重川英介	1974,11,	ニンチン・カンサ	7,206m	1995,8,17	20263
14	延安勇	1959,12,	パルンツェ	7,129m	1980,9,27	20296
15	小川裕正	1970,9,	レーニン	7,134m	1991,8,5	20327
16	松本信太郎	1976,6,	チョム・カンリ	7,048m	1997,5,13	20345
17	川上順一		クン	7,077m	1979,10,10	20
18	藤田昭彦		ヌン	7,135m	1986,10,3	20
19	国久武揚		カント	7,055m	1988,3,26	20
20	入瀬透		コルジェフスカヤ	7,105m	1988,7,22	20

## 2003年H A J サマー・キャンプ隊員募集

### チベット カンペンチン(7,281m)

シシャバンマの北麓の大地を進むと屏風のように白い山脈が連なっています。その主峰がカンペンチンと呼ばれる山です。まるでヒマラヤ山脈を守るかのように立派な牙のように鋭峰(北峰)を持った山です。1982年と1998年に日本隊によって登頂されていますが、ルートはその東面を予定しています。

記

1. 期間：2003年7月20日～8月25日(37日間)
2. 募集人員：10名程度

3. 負担金：85万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 〆切り：定員になり次第
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。また、高所ポーターを使用しない隊員による自力登山です。

# 2002年カラコルム登山計画一覧表

	山名	標高	ルート	国名	隊長名	入国日	人数	
1	ガッシャーブルムⅡ	8035	南稜	イギリス	Davidw. Hamilton	5月31日	7	
2	〃			韓国	Yoo Jaeill	5月31日	6	
3	〃			日本	近藤和美	5月17日	7	日本勤労者山岳連盟
4	ガッシャーブルムⅠ	8068		スイス	Ander Georges	5月17日	10	
5	K 2	8611		スペイン	Araceli Segarra Roca	6月2日	5	メキシコと合同
6	〃			〃	Jordi Tosas Robert	6月1日	7	国際隊
7	〃			日本	近藤和美	5月17日	7	日本勤労者山岳連盟
8	〃				Samdrung			
9	〃				Luis Fraga	6月7日	3	
10	〃					6月6日	15	
11	〃				Bogdan Mihnea Cuibus	5月15日	2	
12	ブロード・ピーク	8051			Sebastian Alvarto Lomba	12月6日	7	冬期登山
13	〃			スイス	Ander Georges	5月17日	10	
14	〃				Robert Rackl	6月10日	17	
15	ガッシャーブルムⅣ	7925		スイス	ClSELLA Mario	6月1日	7	
16	スパンティーク	7027	南西稜	イギリス	Davudw. Hamilton	8月2日	7	
17	〃		〃	スイス	Victor Suanzez	7月10日	2	
18	〃		〃	日本	大宮 求	7月29日	7	
19	ナンガ・パルバット	8126	西面	スペイン	Luis Cortabitarte	6月2日	5	
20	〃		南面	日本	細田一郎	7月19日	2	
21	ドゥルフィカ	6444	北西稜	イギリス	David W. Hamirton	6月28日	7	
22	ムスターグ・タワー	7284	東壁	ポーランド	Maciej Sokolowski	5月31日		
23	チョゴリザ	7668	南西稜	日本	岩崎 洋	6月10日	4	日本ヒマラヤ協会
24	ユトマル・サール	7330		アメリカ	Lev Loff	7月2日	6	
25	バルトロ・カンリ	7300		日本	岩崎 洋	6月10日	4	日本ヒマラヤ協会
26	バツラ・ムスターグ			ドイツ	Walter	6月15日	7	
27	無名峰	6400		日本	亀井 正	6月28日	7	横浜山岳会

(資料提供：日パトラベル)

## HAJ 35周年記念行事資金協力をお願い

HAJは、1967年10月に創立され、諸先輩達の努力により本年、35周年を迎えることになりました。これを機会に記念の幾つかの行事を行うこととなりました。会員の皆様にも資金のご協力を仰ぎたくここにお願い申し上げます。

記

1. お願いする金額：一口 1万円

\* 機関誌「ヒマラヤ」誌上にて氏名・口数を公

表します(匿名を希望される方は、その旨ご連絡下さい。)

2. 記念行事の概要

(1) 記念講演会&祝賀会

日時：9月28日(土) 16時～20時

場所：東池袋、かんぼヘルプラザ東京

16時～17時半 記念講演「HAJ未知の山」

18時～20時 記念祝賀会

## 地域ニュース

### 《ネパール》

#### 渡邊玉枝さんがエヴェレスト 女性最高令登頂更新

サガルマータ(8,848m)に南東稜から挑戦していた渡邊玉枝さんは、同ルートから5月16日同行の村口徳行(45)と共に登頂に成功した。63歳と145日で同峰の女性最高令登頂記録を大幅に更新した。

#### 練馬山の会がバルツェ隊派遣

練馬山の会では今秋、バルツェ(7,129m)へ河野千鶴子(55)、茂木康枝(51)の女性ペアを派遣することになった。ルートは南稜を予定している。

### 《中国》

#### チョモランマに相次いで登頂

5月17日、チョモランマに挑戦していた桐生隊の石川富康隊員が65歳と176日で登頂に成功し、最高令登頂記録を更新した。なお、同氏は、94年5月13日にネパール側南稜ルートからも登頂しており、3回登頂の加藤保男、山田昇に次いで2回登頂の尾崎隆、三枝照雄、貫田宗男、名塚秀二、村口徳行に並んだ。

また、同日には桐生隊の宮崎勉(54)隊員と公募隊の山田淳(23)隊員も北稜からの登頂に成功した。

#### 1985年隊、石井慎一氏遺体発見

1985年秋、北稜からチョモランマに挑戦したウータンクラブ隊(長谷川恒男隊長ら11名)の石井慎一隊員(当時33歳)は、9月17日午前9時15分頃ノース・コル直下6,900m付近で雪崩のため行方不明となっていたが、今春入山中の外国隊によって遺体が発見された。同隊では隊員の一人を派遣し遺体を収容した。

#### 三浦雄一郎氏がチョー・オユーに登頂

来年70歳でエヴェレスト登頂を目指す予定の三

浦雄一郎氏(69)が、5月9日午前9時30分、チョー・オユーの登頂に成功した。同氏は69歳と209日で恐らく八千メートル登頂の最高令記録となった。尚、同日には三浦氏の次男の豪太隊員(32)も登頂に成功した。これは日本人として八千メートル峰の親子同時登頂の初の記録となる。

更に翌日には、同隊の加藤幸彦隊員と、村田博(61)、東秀訓(42)両隊員も登頂した。加藤隊員は69歳と100日であった。尚、これまでの日本人八千メートル峰最高令登頂記録は、00年チョー・オユー登頂時の平田恒雄さんの65歳と100日であった。

## Books

### 旅の指さし会話帳ネパール語

ヒマラヤ登山の楽しみの一つにその国の人々との交流がある。言葉は出来なくても特に困る事はないが、色々と話しが出来れば楽しい。私もキャラバン中はスタッフとお互い言葉を教え合いながら歩く。しかし覚えの悪い私に比べすぐに日本語を操る彼等にいつも悔しい思いをさせられる。ヒマラヤ放浪の権威I氏曰く。「言葉を覚えるには現地の女と暮らすのが良い、というのはウソで本人のやる気が大事」と言っている。その通り要はやる気の違いだろうか。又、Y氏はネパールで長い間仕事をしてきた経験から「ネパール語はカーズトで使い分けたりするので難しい」と言っていたのを思い出す。

さてこの会話集の特色は様々なシュチュエーションに分けられ、その中で話したい内容を相手に見せながら指さして使う。ネパール語にカタカナの発音が添えられている。又随所に盛り込まれているイラストがさらに相手の理解を助ける事となる。会話集というどうしても難しい文法などから始まるので途中でリタイアしてしまいがちだが、この会話集は現場で役立つ工夫が成されている。巻末には3000語の単語集が添付されている。

(記：野沢井歩)

A5判 128頁 2002年2月22日刊 野津治仁著  
情報センター出版局 1800円+税

九州の岳人たち（その登山史）

日本山岳会福岡支部が纏めたもの。大きくは、国内戦前編（11章）、国内戦後編（22章）、海外編（10章）、年表の4項目からなっているが、膨大な資料を基にしなければ到底成し得ない事業である。国内編はほぼ年代順に構成されている。海外については、海外へのパイオニア／進取の九州魂／ルートを拓く／黄金期／無念と悲しみ／「何としても…」登りたい／山はトシではない／一人で・速攻で／指揮官たち／新しいスタイル、など項目別に構成されており、九州人の山行が網羅されている。

（記：山森）

A 5判 550頁 2002年5月12日刊

日本山岳会福岡支部 〒810-0075 福岡市中央区港2-5-3 サポートハイッ902

珠穆朗瑪峰 1996

立正大学が1996年春、チョモランマに派遣した登山隊報告書。登山隊は2回の登頂に成功したが、隊は幾つかの問題を抱えながら進行した。復元され掲載された「交信録」がその一端を伝えている。このような高所キャンプとの交信録の掲載によってこの登山隊の性格が見えてきて、報告書の価値は一段と増大したといえよう。その他個人の感想にも簡潔にまとめられた各項目の報告にも登山隊の実態が滲み出ており実践向け報告書になっている。

（記：山森）

B 5判 142頁 カラー8頁 2001年12月刊

連絡先 〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢354-12 山崎幸二方（立正大学）

もうひとつのシルクロード  
西域からみた中国の素顔

労山事務局長の野口信彦さんの新疆レポート。新疆は漢族も住むものの現在はイスラム文化圏の色合いが濃い。著者が度々訪問したこの地のイスラムの人々との交流を通して得た新疆の歴史や現状を基に、著者の見識を通して解説紹介している。建国50年を経て共産党支配によってもたらされている、中国の様々な矛盾が各所に描かれている。

前著「幻想のカイラス」を数段上回る力作とみた。

B 6判 204頁 2002年5月13日刊

大月書店 2000円＋税

〔なお、H A Jでは出版社と著者のご好意により本書購入に便宜を計って戴きました。必要な方は1600円を下記郵便振替にて送金ください（但し、取扱いは7月10日限）口座名 日本ヒマラヤ協会  
口座番号 00100-6-48954

ヒマラヤから

チョモランマ便り

ナマステ！ プレ登山、カトマンズでの準備が終了し、予定通り今日4月9日ザンムーに着きました。日本出発前は、群馬隊の情報ありがとうございました。我隊の佐藤隊長が群馬隊の方々とお会いする機会がありました。日本の隊がいること、また海外登山経験豊富なすばらしい方々とお会いできることは心強くもあり、多くのことを学びたいと思います。一步一步を大切にチョモランマ登山を楽しみたいと思います。

4月9日ザンムーにて 札幌中央労山 谷口静枝

パドマナブ便り

5月3日に許可を受け、5月6日VISA申請、8日受取り、9日出国とあわただしい出発でしたが、インド側のメンバーによる手配良く、到着後はきわめてスムーズです。いろいろアドバイス頂きありがとうございました。

日印合同東カラコルム隊 坂井広志

■財政支援：1万円（平山良正、鈴木雄一、長谷川和雄）

東京集会のお知らせ

日時 6月24日（月）午後7時～  
内容  
場所 H A Jルーム（地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分）  
又は、J R大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分）

# 2003年H A J 登山隊隊員募集

## 八千メートル峰 シシャパンマに新ルートを求めて

ヒマラヤの八千メートル峰に新ルートを開拓する余地はないか。このテーマ(夢)を追い求めて過去岳人達は様々な努力をしてきた。

1990年代に入り日本隊では、90年チョゴリ北西壁下部(横浜)、95年マカルー東稜下部(JAC)、97年K2西壁上部(JAC東海)など部分的な開拓が行われ、94年山野井泰史が単独でチョー・オユー南西壁に新ルートを開拓した。

現在シシャパンマ峰は、主峰の標高を8,027mとした場合、中央峰の標高が8,008mとなる。このため中国隊が初登頂した北面から中央峰北東稜を登りそのまま中央峰に登頂しているケースがほとんどとなっている。初登頂した中国隊は中央峰北東稜から大雪面をトラバースして主峰に登頂している。日本隊では81年女子隊、88年H A J隊、99年群馬隊は、この大トラバースを行い主峰に登頂した。他隊は何故トラバースして主峰に登頂し

ないのか。それは「雪崩」の危険を避けるためだろうと推測される。しかし、中央峰を登った岳人たちもそこが「8,000m」の標高を与えられているからなのだが、ヒマラヤの標高は不動ではない。今後中央峰の標高が8,000mを切ることも考えられる。

シシャパンマ主峰に新ルートは考えられないのか。常々疑問に思っていた。技術的に困難な南西壁では通常ルートにはなり得ない。可能ならば通常ルートとなり得るようなレベルの新ルートをトライしたいと考えている。意欲ある岳人の参加を期待する。

記

1. 時期 2003年9月10日～11月8日(60日間)
2. 募集人員 10名程度
3. 負担金 100万円
4. 申し込み、問い合わせ H A J事務局

# 2003年H A J サマー・キャンプ隊員募集

## カラコルム スパンティーク(7,027m)

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトや、ポータートラブルなど、短期間登山にとっては、幾つかの問題がありますが、情報の収集や強力なスタッフ配置、隊員の積極的な参加によって対処して成功に結びつけたいと思います。

記

1. 期間：2003年7月18日(金)～8月25日(月)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：75万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 申込〆切：11月30日(定員になり次第〆切)
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しない。

## 桑頂抗沙峰(6,590m)

チベットのラサから北北東(直線距離で約135km)に美しい山容の山があります。周囲の山々を睥睨するかのよう峻立するその姿は、白い雪にまわられて見る者は息をのまざるを得ません。

記

1. 期間：2003年7月26日～8月22日(28日間)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：70万円
4. 〆切り：定員になり次第
5. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しない。

# ロー・マンタンの空、遥かなり(2)

## カリガンダキ左岸の地図の空白部に行く

高橋 照

### カグベニからティリー・ガウンを経てタンベへ

5月30日、6時頃のことである。カグベニのバツティの中庭で私達が朝の食事をしていると、3、4人の部下をしたがえたカグベニのチェック・ポストの署長が天幕を訪れて来た。ゴマ塩頭のサブ・インスペクターである。この年になっても、まだこのあたりのサブ・インスペクターでは一生ドサ廻りの運命にありそうだ。私は見覚えがないので、5年前には居なかったようだ。余程当時ここでサブ・インスペクターをしていたドンガナは今何処に居るか聞いてみようと思ったが、隊長の菊地君の今置かれている立場を考えると、そんな質問は出来なかった。しかし、ドンガナには私は親しみを持っていたのでなつかしかった。

コックのニマは心得たもので、「カジ・サーブは朝食は未だなのでしょうね」といいながら、食器に飯とダル、タルカリをそえて差し出した。チェック・ポストの役人達は私達の方へちょっと会釈した後、朝食を食べはじめた。万事心得たニマが、おかわりの飯やダルを一人一人に入れ始めると、ゴマ塩頭の署長は食器に手をあてがって、もう充分だという素振りをしながら、「カグベニのチェック・ポストの業務はこれで終わった。皆さんはこれから自由にチェック・ポストを通過して行ってもよいでしょう。皆さんの旅の幸運を祈ります」と英語でいって、お茶などを飲んで十分ぐらいで部下とともに引き上げて行った。これでカグベニでのチェック・ポストの手続きは一応終了したものだと思われた。

6時半にはポーター達、7時半には隊員達がそれぞれ三三五五出発して行った。私はバツティの二階に上がってお内儀と馬の値段について交渉をニマと一緒に続けていた。私が馬一頭一日150ルピーだということに対して、お内儀は250ルピー

だという。そこで私は、

「昨日乗って来た馬は一日150ルピーだったよ。後から馬で来た馬の持ち主に明日チュクサンまで行かないかといったが、約束があるので行けないが、この馬なら180ルピーだと言っていたぞ」というと、「あれは平地しか行けない馬だよ。折り合って200ルピーにしましょう」というので、ニマに相談すると、「そのへんの値段がこの地方の相場なのでしょう」というので不精無精承知することにする。

こんな時カグベニのチェック・ポストのドンガナがいたら、100ルピーぐらいで決めさせたに違いない。この時も、私は一刻も早くこのカグベニを脱出したかったので、バツティの前につないであった白い馬の手綱をとって、カグベニの旧城廓都市に向かった。バツティの隣の大きな Cholten の門をくぐると、狭まったカリガンダキを対岸に渡る道があった。

5年前、ここから対岸に渡ったところである。5年前は隊商の中にまぎれ込んでいたので、この道の入口にあるタカリのバツティの女達が、隊商の男達にチャン（どぶろく）を振る舞い、旅の安



▲カグベニのドロ柳と用水路

全を祈願してくれたことが思い出された。しかし、きょうはバッチィからは誰も顔を出してはくれなかった。

タカリのバッチィが両側に立ち並ぶ道を通り抜けると、ジョング・コーラに掛けられた木橋がある。ジョング・コーラの水はムクチナートの聖地のダラ（水）を集めて流れて来る清流であるが、今は雪解けのせいか赤茶色ににごっていた。川のへりにはドロ柳の木が群生し、カグベニのオアシス地帯をつくっている。橋を渡るとそこはカグベニの旧城廓都市で、隣にある赤い色のゴムパがひとときわ高い。

カグベニはネパール政府がトレッキング・パームッションで許可しているギリギリのボーダー・ラインである。カクとはチベット語でブロックという意味で、それがネパール語にまあってカグとなり、ジョング・コーラとカリガンダキの合流点に位置しており、ネパール人は大きな河の合流点を神聖視して、ベニと呼んでいるので、一緒になってカグベニとなったのだろう。

城内は5年前とはだいぶさま変わりしていて、トレッカー向けのバッチィが数軒出来て、それぞれ英語でホテル・アンド・レストランという看板をかかげていた。このカグベニの集落から北は、カクと呼ばれ一般に12ヶ村（バーラ・ガウン）と呼ばれている。また、その地域に住む住人をカク・パといっている。そして、その北にムスタン即ちローが君臨しているのであるが、行政区画ではタック・コーラを含め全部がムスタン県（ディストリクト）となっている。

カグベニからジョング・コーラにそって東にムクチナートに行く道が通じているが、その1時間ほど手前に12ヶ村の主都であるジャルコットがある。ジャルコットもカグベニ同様城廓都市であるが、丘の上にどっかりと建てられた古い王宮跡である。コットとは丘や山の上に建てられた宮殿のことで、このコットのついた地名はネパール各所にある。ジャルコットのジャルコーは大きな鳥の意で、鳥葬の時集まってくる大きな禿鷹が、この付近に群棲しているからであろう。

カグベニの村はずれに見覚えのあるマニ車が立ち並び、その外れにチェック・ポストがあった。

## ▼カグベニの旧城廓都市



一晩ご厄介になったところである。チェック・ポストの前に2、3人の警官が居たが、私達にはまったく無関心だという態度だったので、20分ほどチェック・ポストに馬を止め、眼前に広がるカリガンダキの河床に見にいていた。

ポーターの数人がカリガンダキの左岸の高巻き道を登っていったので、チェック・ポストの役人にどっちの道がよいかと尋ねたところ、今は乾期なので河床路の方が楽だという。そして、馬ならば全部河床路を行っても大丈夫だと教えてくれた。私はチェック・ポストからいきなり河原に下りるコースをとった。

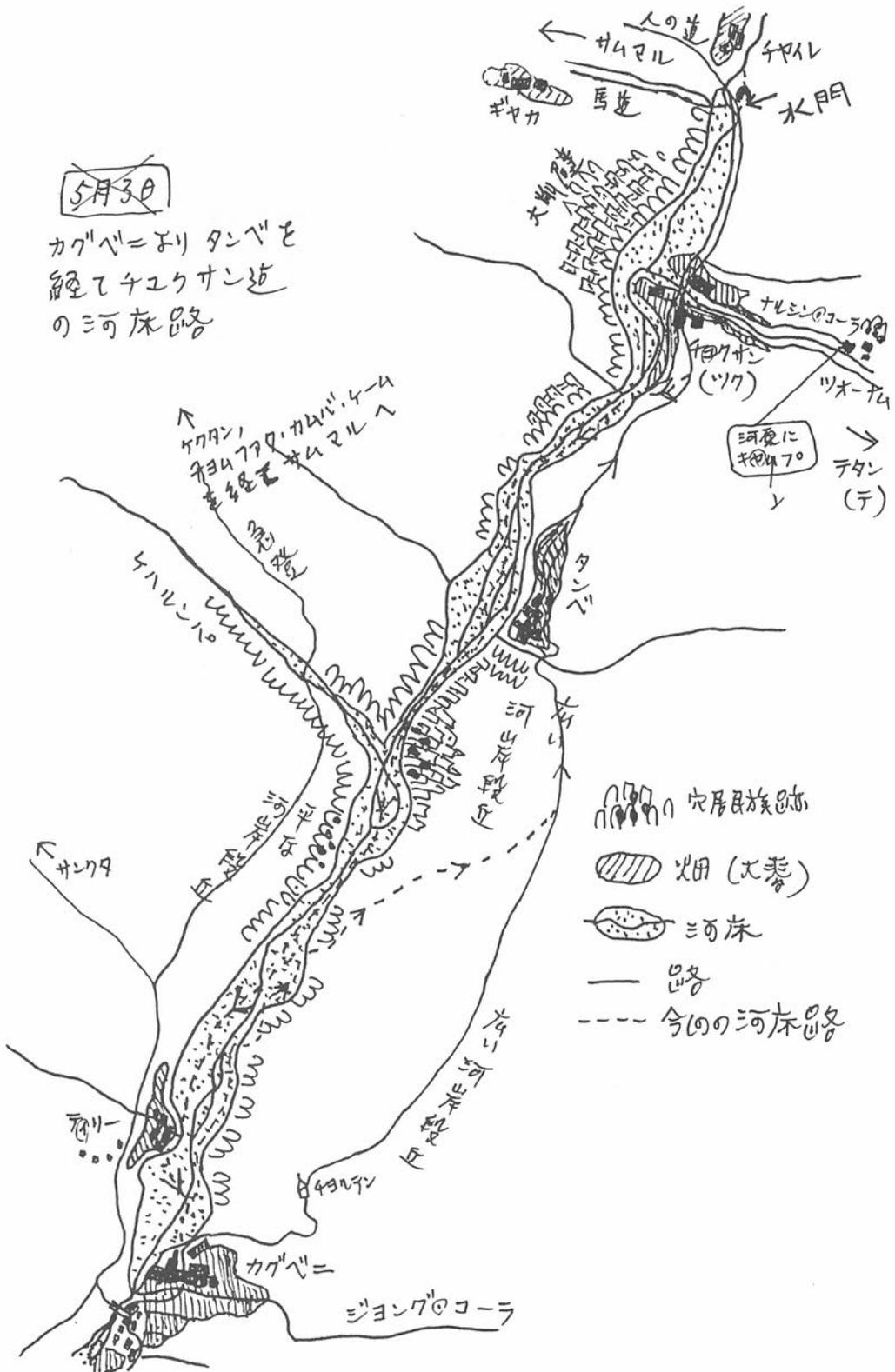
眼前にはなつかしいティリー・ガウンの村が対岸に横たわっていた。ティリーはチベット名ではティンリ [Tinri (Ting-ri)] と呼ばれている。前に通った時は、ティリーの畑はダクタン・ソパのピンクの花盛りだったが、今は大麦のグリーンが展がっていた。

私はティリーの下に広がる河原をゆっくりと馬を走らせた。5年前にはティリーの上部のカリガンダキ右岸の河岸段丘を進んだが、今はその下方の河原をゆっくり進んだ。村の中央には、この小さな村にしては立派なゴムパがあるが、帰路立ち寄った時判ったことだが、村人達は“アニ・ゴムパ” [a ni dgon pa] といっていたから尼寺である。山の上に向かってメンドングと呼ばれるチョルテンが続き、そのそばをサンクタからドルポに至る道がつづいていた。このサンクタも12ヶ村の中の一つであるが、ムスタン県の西の果てで、そこからドルポ地区に入る。

ここで、ドルポについて蛇足ではあるが、一言

5月30

カグベニよりタンベを  
 経てチウクサン迄  
 の三河床路



つけ加えておきたい。それはよく論争の種になっている「ドルポか？ドルパか？トルボか？」の問題である。ネパール人が一般的に呼んでいる [Dolpo] は本当はドルパ [DoL-pa] が正しいと思う。チベット語でボテ達はToL-boと発音しているが字はDor-paと書く。したがってネパール語のDoLpoまたはDoL-paは、Dor-paが正しいようだ。Paはpeopleであるから、その前のDorの前に子音がないのでTorと発音するのだろう。しかし、そんなことだけではなく次のようなこともいわれている。DoがToの発音になるのはドルポの人々 [Dor-pa] は純粋なチベット人からみると、ロー・カーストの住民で、恐らくグルン、マガール、キランティなどとチベット族との混血で、純粋なチベット族（ボテ）ではないので、Doの発音をToの発音に置き換えて純血種との違いをハッキリさせたものだという。

Paの発音がBoの発音になるのは、音便でBoになったのだろう。だから西藏文字でDor-paはTorboの発音になって、自分達純血種とは異質の人種なのだ、とさげすんで呼ぶようになったとのことである。

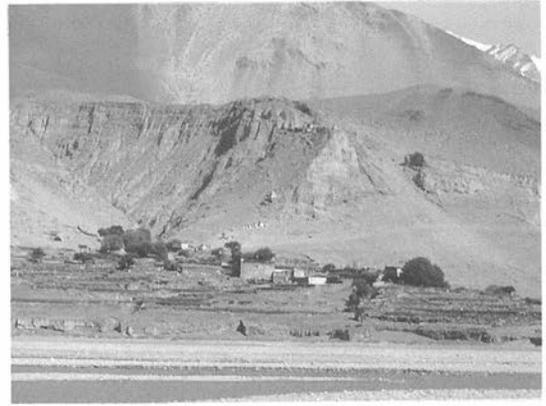
また、ドルポの北方にあるムグ地方の言葉はチベット語でなく、ジュムラ語 [JumLl] を使っているが、ドルポはチベット語の方言を使っている。

ドルポの別名はネパール語でカシーヤ [KhasLya] といってこれもロー・カーストに対するさげすみの名称を使っている。カス（ドルポ）はジャレ [Jhare] で純粋なボテではない。彼等は一般にボテ・グルン [BhoteGrung] と思われるようだが、ボテ・グルンはツァルカ・ポートに少しいるだけである。

カス（ドルポ）〈Khas [DoLpa]〉は、ボテとトクーリー [TakurL]、チェットリー [KshatrL]、カシヤ [KhasLya]、カム [Kham] などの混血なので、それ故にチベットからみたらロー・カーストのボテという見方をされている。だからネパール人の呼ぶDoLpoまたはDoLpaはTorboとチベット人はさげすんで呼称している。

ここに名を挙げたトクーリーとチェットリーは、インドのラージャスタンよりムガール王朝に追い上げられ、北方（チベット）経由で西ネパールに

## ▼ティリーガウン



入り、そこに住みついたインド・アーリヤン系の種族である。本稿には余り関係はないが、この北方経由で入り込んだバウン、チェットリー、トクーリーが、西ネパールに沢山住みついているのは、まだ余り解明されていない興味ある問題であるが、ここでは割愛することにする。

さて話を先を進めることにしよう。私はティリーの村を左に眺めながら、カリガンダキの河床を北へ北へと一路目指した。ところどころ浅瀬ではあったが、徒渉地点があったためかポーター達は、いつのまにか左岸の河岸段丘の上を進んでいた。前方にはケハルンパ合流点の左岸の大岩壁が望見出来た。あそこまで行けば、タンベの村も近いはずだと馬を進めた。ケハルンパの手前に急流でしかもかなり深そうな徒渉地点があった。馬なら突破出来そうに見えたが、真っ黒いカリガンダキの流れは、かなり急なようだ。

私がいま数頭以上の家畜と行進していたならば、躊躇なく徒河しただろうが、今は一人である。もし渡河中に馬が転倒したら取り返しのつかないことになる。5年前、私は前方のケハルンパを命がけて渡った経験があるので、大事をとって左岸の河岸段丘に登る道を発見して、その道を行くことにした。

段丘に出る手前の岩場で馬を下り、馬を引いて歩き始めると重そうな鉄のアンクルを背負ったポーター3人が休んでいた。私が、「これは電柱に取りつけるための鉄材かね？」と聞くと、「そうだ。チュクサンまで運ぶのだ」という。

これによるとタック・コーラで発電予定の電気はかなりパワーの大きいものだなあと思われた。

タック・コーラのようにまだ電線は張られていないが、きっと電気はサムマルまで引かれることになるのだろう。こんな秘境にも急速に文明の波が押しよせて来たことを、驚きの目でポーター達を眺めた。

河岸段丘の上に出ると、広い平らな平原で、カラガナ [Caragana] の灌木がいたる所に球状の塊になって、まばらに生えていた。まだ時季が早いのか花は咲いていなかった。

対岸にはサンクタからのケハルンバがカリガンダキの河床に合流していた。しかし、水は涸れていてほとんど流水はない。5年前の命がけで渡河した激流は嘘のようだ。そして、その上の3,700m付近の河岸段丘上に、私の泊まったケクタンのゴート（牧草地）が望見され、なつかしかった。

2、30分平らな河岸段丘の上を少しのぼり気味に進むと、段丘の一番高いところに着いた。ケハルンバ合流点の対岸の大岩壁の頂上であった。そこには朝早く出発した金子さんとケサン・ナムギャル氏、そしてジョイント・メンバーのキショール・バツライ、タシ・ザムブー、シェルバが休んでいた。そしてタンベの集落が眼の下にあった。少し離れたところにはリエゾンのビーム・バードルも休んでいた。彼は金子さんとケサン・ナムギャル氏をマークしていることは間違いない。金子さんは、

「私はケサンさんに、リエゾンのいるところではチベット語を使わない方がよいですよ、といわれていましたが、ケサンさんと話したり途中で会うチベット人と話をするのに、どうしてもチベット語が出てしまうんですよ。もうリエゾンも私がチ

ベット語を知っていることが判ってしまったので、今は平気でチベット語をしゃべることになりました」と日本語で私に話してくれた。

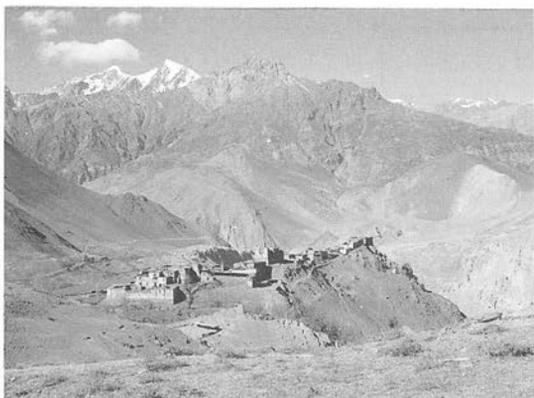
ケサン・ナムギャル氏はネパール語は非常に堪能だが、金子さんはネパール語を全然しゃべれない。だから余計にこの小心者のリエゾンの心をかき立てたに違いない。

いま休んでいるこの辺りは、日当たりが良いせいか、カラガナが黄色い花を沢山つけて咲きほこっていた。私はそのカラガナの花に近づいて花の写真を撮った。そして、リエゾンから少しずつ離れてタンベ村の全景を数枚カメラに納めた。リエゾンが文句をいったら、カラガナの花を撮りに行ったのだと説明するつもりだったが、リエゾンのビーム・バードルは何も文句はいわなかった。

タンベはTamgbeと発音し、チベット名ではgt adstanはTa yigと書く。又Tamgebuともしばしば呼ばれているようだ。タンベはカリガンダキ左岸の高さ100mほどの河岸段丘に位置し、細長い長大な麦畑を持ち、そのほとりを灌漑用水路が走っている。水は何処から引いているのか判らないが、雪解けの赤褐色の水が滔々と流れていた。

タンベの大麦畑のグリーンを左に眺めながら山腹道を少し登ると、そこは見晴らしのよい肩になっていた。眼前にはカリガンダキの広い河原が見下ろせた。カリガンダキの右岸のグランド・キャニオンのような大削壁の下に、長いグリーンの大オアシスが岬のように張り出していた。チュクサンの集落である。

チュクサンも12ヶ村の中の一村であるが、本当は3つの集落からなっていて、それぞれ宗派の異



▲ジャルコット遠望（1976年）

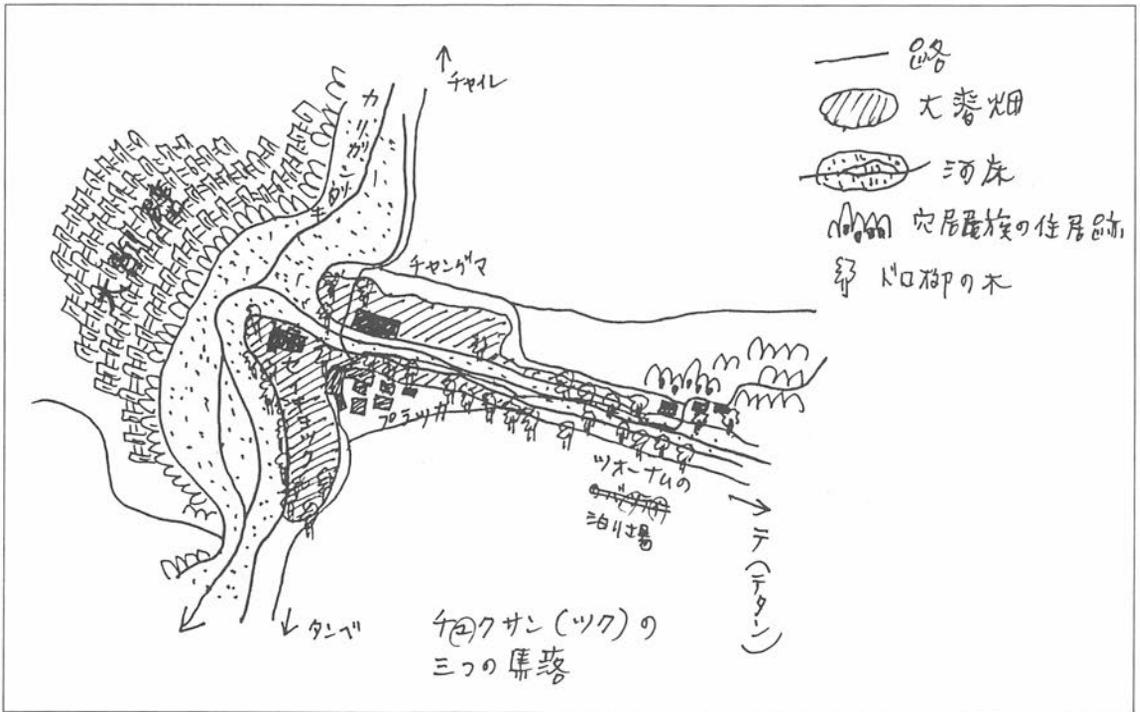


▲ジャルコットの城廓都市

▼タンベの集落をふかんする



▼チュクサン部落遠望



なった仏教のゴムパを持っている。チュクサン [Chhuksang] はネパール名で、チュサン [Chhusang] と呼ばれ、グルンはツクサン [Tsuksang]、チベット名ではツク [Tshugs] である。カリガンダキとナルシン・コーラの合流点に位置している。チュクサンの3つの集落名は、それぞれセイキョツク、プラッカ、チャンガマと呼称されている。

この3つの集落の関係を図示しよう。

リエゾンには村に入ってはいけないといわれていたが、私の馬はそんなことにはいっこうにおかまもなくチュクサンのプラッカの村に入りこみ、村外れのバッチィの前で止まった。時間を見ると

11時だったので、昼食を撮りにバッチィの横のちょっとした広場に馬を止め、真っ暗な家の中に入った。私は眼がまだなれていないので、焚火の煙でいっぱい部屋に手さぐりで入り込んだ。

そのうち眼がなれるにしたがって、バッチィの中には沢山の人がとぐろを巻いて座っているのが判った。金子さんやケサン・ムナギヤル氏、そしてネパール人のキショールやタシも居た。キショールをのぞく全員はチャンを何杯もお代りしていた。キショールはバウンなので酒はいっさい手をつけない。

私にはいろいろのそばに腰を下ろし、ミルク・ティーを注文し、携行のチャパティで昼食を摂った。

平成14年度

## 日本ヒマラヤ協会通常総会報告

日時 平成14年5月18日(土)13時～14時  
場所 東京、東池袋 かんぽヘルズプラザ東京  
出席者 本人出席：遠藤登(顧問) 酒井國光(会長)、山森欣一、尾形好雄、中川裕、野沢井歩、古関正雄、田辺治(以上理事) 保坂昭憲、中岡久(以上監事)、寺沢玲子、天城敏彦、国沢鎮雄(以上評議員) 鈴木正典(山形)、近藤幸夫、鈴木雄一、田中祥治、出口當、森山安次、睦好正治(以上東京)、以上本人出席20名、委任状提出者267名、合計出席者287名。定足数は会員数725名の三分の一242名。よって総会は成立。

### 総会次第

1) 中川裕常務理事の司会で定刻開会。総会に先立ち、酒井会長、遠藤顧問から挨拶を戴いた後、定款の規定では議長は理事長であるが、理事長が各議案説明に当たるため、出席者同意の上、議長席に尾形好雄常務理事が着席。議事録署名人に野沢井歩、森山安次両会員を選んで議事に入った。

### 2) 議事

議案第1号から第5号について山森理事長から説明がなされて全て満場一致で承認された。理事会報告があり、平成12年度総会を終了した。

### 平成13年度事業報告

自 平成13年4月1日

至 平成14年3月31日

I. 定款第4条第1項にもとづく事業(ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与)

#### 1. 情報管理事業

1) 会員内外に対する情報提供とトレッキング・踏査・登山計画の企画・研究等の指導。

年間100件を越す電話・FAXによる照会と50件を越える事務所への来訪者へ情報提供と指導を実施した。

2) 文献・資料のレファレンスサービス

一般的に入手しづらいもの限定してサービスを実施した。ヒマラヤ諸国の登山規則・地図・登山記録・登頂者記録等に関する希望者が多い。

2. ヒマラヤ登山情報管理機構(センター)設立事業

21世紀を展望して登山4団体(日山協、労山、JAC、HAJ)が平成10年3月に合意した「海外登山情報センター」構想の進展が見られないため、これを打開する方法について関係者と協議した。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業(登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表)

#### 1. 調査研究事業

1) 高所登山における事故防止に関する調査研究

ヒマラヤ登山における日本隊の死亡遭難事故は、1968年から32年間連続して発生しており、これをストップさせるため、事故の実態をまとめ「高所登山 事故と環境対策研修会」で公表すると共に事故例について解説した。しかし2001年は標高六千メートル以上の峰の死亡事故は、秋のネパールで3件発生し、5名が死亡した。

2) 高所登山に対する意識調査

実施しなかった。

3) 山岳の自然を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究

本会が主催する「インド・ヒマラヤ会議」、「中国登山研究会」、「高所登山 事故と環境対策研修会」で、「テイクイン、テイクアウト」について研修した。

2. 出版事業(研究報告)

1) 日中合同登山隊(97年)報告書「未踏峰 クーラ・カンリII」発行(4月)

- 2) アルタイ山脈登山隊 (99年) 報告書準備
- 4) チベット連続登頂登山隊 (99年) 報告書発行準備

### 3. 関連学術事業

興味ある地域への派遣について研究した。

## III. 定款第4条第3項にもとづく事業 (ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣)

### 1. 高所登山事業

- 1) サマー・キャンプ「ニンチン・カンサ (7,206m) 登山隊」の派遣

7月20日～8月25日に酒井國光隊長以下6名を派遣し、8月15日に3名が登頂した。

- 2) 「ヤンラ・カンリ (7,429m) 登山隊」の派遣

9月10日～11月8日に山森欣一隊長以下8名を派遣し、国境稜線6,900mまで到達したものの登頂は断念した。

### 3) 直轄プロジェクトの推進

- イ) 平成14年度サマー・キャンプ「ニンチン・カンサ (7,206m) 登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊を構成 (山森欣一隊長以下4名) した。

- ロ) 平成14年度「シシャパンマ (8,027m) 新ルート登山」

新ルートからの登頂の可能性を求めて隊員募集に着手したが翌年度に延期した。

- ニ) 平成15年度「サマー・キャンプ登山」  
ニンチン・カンサ (7,206m)、カンペンチン (7,281m)、スパンティーク (7,027m)、サンデン・カンサ (6,590m) 各峰の隊員募集に着手した。

- ホ) 時期到来の折りに実施する「H A J & 四川省登山協会合同登山」

時期と目標の山について四川省登山協会と協議を行った。

- ヘ) H A J として未着手の天山山脈登山隊派遣準備。

### 4) 登山許可申請と取得

ヒマラヤ高所登山分野での現状を分析しつつ、ヒマラヤ登山の大衆化の分野の声に応えると共に、未知と困難への挑戦の育成

を視野にいれ、魅力ある高峰について各国へ登山許可申請と打診を行った。

### 2. 野外活動事業

- 1) ヒマラヤ各国の魅力ある地域への踏査・トレッキング隊の派遣について企画準備を行った。

## IV. 定款第4条第4項にもとづく事業 (機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修、各種会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動)

### 1. 機関誌発行事業

「ヒマラヤ353号～364号を毎月発行した。

### 2. 出版事業

- 1) 「ネパール登山の手引き」第3版を発行した。(8月)

### 3. 指導・啓蒙事業

- 1) 日本ヒマラヤ会議の開催

各地の条件が整わず開催できなかった。

- 2) 地域ヒマラヤ集会の開催

各地の条件が整わず開催できなかった。

- 3) 定例会

毎月東京ルームで開催した。

- 4) 第23回「インド・ヒマラヤ会議」の開催

1月27日東京にて開催。平成13年度隊の報告と情報交換を行った。参加者35名。

- 5) 第10回「中国登山研究会」の開催

2月4日東京にて開催。平成13年度隊の報告と情報交換を行った。参加者21名。

- 6) 第8回「高所登山 事故と環境対策研修会」の開催

4月1日に東京にて開催。雪崩や高所順応、テイクイン、テイクアウトについて研修した。参加者34名。

- 7) 壮行会

7月7日東京で開催。計画の発表と情報の伝達。ニンチン・カンサ&ヤンラ・カンリ登山隊。(72名)

- 8) H A J 華甲望年会

12月8日東京で開催。本年度2隊の登山報告と本年中に還暦を迎えた会員4名を祝い、行く年を惜しみ来る年を語った。(59名)

## V. 定款第4条第5項にもとづく事業 (その他、

前条の目的を達成するために必要と認める事業)

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請  
実施しなかった。

2) 代表の派遣

7月20日～26日、山森理事長をニンチン・カンサ登山隊アレンジと各登山協会協議のため、北京、成都、ラサへ派遣した。

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

イ) ネパール、ディベンドラ皇太子歓迎会  
(4月)

ロ) チベット大学代表団歓迎会(7月)

ハ) アジア岳人の集い(9月)

ニ) クルト・ディームベルガー氏歓迎会  
(2月)

ホ) 元インド、IMF総裁、M. S. コーリー氏歓迎会(3月)

2. 国内関係団体との協調

1) HAJの発案で始まった「登山4団体三役懇談会」を、本年は、日山協幹事で、行い、労山、JACと情報交換と協議を行った。  
(7月)

2) 江本嘉伸、小野有五氏らの呼び掛けに応じて、日山協、労山、JAC、HAT-Jと共同で「国際山岳年日本委員会」を期限付き(国際山岳年のみ)で設立した。(1月)

3) アルパイン・ガイド協会創立30周年記念祝賀会(10月)

4) その他、山岳3団体等と協力・情報交換を行った。

3. 組織の整備

1) パソコンを配備した。

4. その他

1) アテネ書房から発刊された「ヒマラヤへの挑戦3」の監修を行った。

2) 1989年マッキンリーで遭難した本会元常務理事「山田昇」氏の遺稿・追悼集発刊について協力した。(継続中)

平成13年度収支決算書

自 平成13年4月1日

至 平成14年3月31日

I. 一般会計

(収入の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入会金収入		( 500,000)	( 145,000)	(△ 355,000)
	入会金収入	500,000	145,000	△ 355,000
会費収入		( 9,000,000)	( 5,738,200)	(△ 3,261,800)
	通常会員会費	6,000,000	5,298,200	△ 701,800
	終身会員会費	3,000,000	440,000	△ 2,560,000
事業収入		( 14,100,000)	( 9,462,937)	(△ 4,637,063)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	12,200,000	6,916,022	△ 5,283,978
	指導啓蒙事業	200,000	229,000	29,000
	機関誌発行事業	800,000	1,288,865	488,865
	出版事業	800,000	999,050	199,050
	国際交流事業	100,000	30,000	△ 70,000
	その他事業	0	0	0
雑収入		( 300,000)	( 778,647)	( 478,647)
	雑収入	300,000	778,647	478,647
前期繰越		(△ 6,079,501)	( 6,079,501)	( 0)
	前期繰越	△ 6,079,501	△ 6,079,501	0
合計		17,820,499	10,045,283	△ 7,775,216

(支出の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費		( 8,700,000)	( 8,461,261)	(△ 238,739)
	給料手当	5,000,000	5,000,000	0
	通信運搬費	400,000	243,519	△ 156,481
	電話	200,000	126,962	△ 73,038
	消耗品・文具費	50,000	22,702	△ 27,298
	営繕備品費	0	253,095	253,095
	印刷製本費	800,000	638,544	△ 161,456
	図書費	50,000	74,555	24,555
	貸借料	1,720,000	1,719,900	△ 100
	光熱水費	150,000	128,424	△ 21,576
	会議費	30,000	27,720	△ 2,280
	広報費	200,000	204,120	4,120
	雑費	100,000	21,720	△ 78,280
事業費		( 14,400,000)	( 12,734,975)	(△ 1,665,025)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	11,000,000	9,271,472	△ 1,728,528
	指導啓蒙事業	150,000	125,596	△ 24,404
	機関誌発行事業	2,800,000	2,345,412	△ 454,588
	出版事業	300,000	924,686	624,686
	国際交流事業	150,000	67,809	△ 82,191
次期繰越		(△ 5,279,501)	(△ 11,150,953)	(△ 5,871,452)
	次期繰越	△ 5,279,501	△ 11,150,953	△ 5,871,452
合計		17,820,499	10,045,283	△ 7,775,216

## II. 財産目録

(平成14年3月31日現在、単位：円)

種 別	摘 要	金 額
1. 現 金	手 許 現 金	( 38,539) 38,539
2. 普通預金	第一勧業銀行高田馬場支店No.1099791 東京三菱銀行新宿支店No.4455421	( 303,622) 232,245 71,377
3. 郵便振替	0 0 1 0 0 - 6 - 4 8 9 5 4	( 125,165) 125,165
4. 備 品	事務所備品	( 450,000) 450,000
5. 登山装備	中国・デボ 事務所・デボ	( 700,000) 500,000 200,000
資産合計		1,617,326
6. 未 払 金	柴 田 金 之 助	( 100,000) 100,000
7. 預 り 金	新年度入会者 4名分	( 60,000) 60,000
8. 前 受 金	2002年度登山隊分	( 708,279) 708,279
8. 借 入 金	柴 田 金 之 助 植 松 秀 之 小 島 守 夫 稲 田 定 重 扱 山 森 欣 一	( 11,900,000) 2,000,000 600,000 500,000 5,000,000 3,800,000
負債合計		12,768,279
差し引き正味財産		△ 11,150,953

## 貸借対照表

(平成14年3月31日現在)

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
現 金	38,539	未払い金	100,000
普通預金	303,622	預かり金	60,000
郵便振替	125,165	前 受 金	708,279
備 品	450,000	借 入 金	11,900,000
登山装備	700,000	次期繰越金	△11,150,953
合 計	1,617,326	合 計	1,617,326

## 平成14年度事業計画書

自 平成14年4月1日

至 平成15年3月31日

I. 定款第4条第1項にもとづく事業（ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与）

### 1. 情報管理事業

- 1) 会員内外に対する情報提供とトレッキング・踏査・登山計画の企画・研究等の指導
- 2) 文献・資料のレファレンスサービス

### 2. ヒマラヤ登山情報管理機構（センター）設立事業

21世紀を展望して登山4団体（日山協、労山、JAC、HAJ）が平成10年3月に合意した「海外登山情報センター」の早期設立に向けて積極的に取り組む。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業（登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表）

### 1. 調査研究事業

- 1) 高所登山における事故防止に関する調査研究
- 2) 高所登山に対する意識調査
- 3) 山岳の自然環境を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究

### 2. 出版事業（研究報告）

- 1) チベット連続登頂登山隊報告書の発行
- 2) アルタイ登山隊報告書の発行
- 3) 神々の座「8000m峰データ（20世紀版）の発行
- 4) 日本隊ヒマラヤ登山50年の記録の発行
- 5) 日本ヒマラヤ協会創立35周年記念誌の発行

### 3. 関連学術事業

興味ある地域への派遣準備

III. 定款第4条第3項にもとづく事業（ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣）

### 1. 高所登山事業

- 1) サマー・キャンプ「ニンチン・カンサ（7,206m）登山隊」の派遣

7月20日～8月25日（山森欣一隊長以下4名）

2) 「カラコルム連続登頂登山隊」の派遣

6月10日～8月20日（岩崎洋隊長以下4名）バルトロ・カンリ（7,300m）とチョグリザ（7,668m）の2峰へ連続登山

3) 直轄プロジェクトの推進

イ) 平成15年度「シシャバンマ(8,027m)新ルート登山」

ロ) 平成15年度サマー・キャンプ「ニンチン・カンサ(7,206m)登山」

ハ) 平成15年度サマー・キャンプ「スパンティーク(7,027m)登山」

ニ) 平成15年度サマー・キャンプ「カンペンチン(7,281m)登山」

ホ) 平成15年度サマー・キャンプ「サンデン・カンサ(6,590m)登山」

ヘ) 時期到来の折りに実施する「H A J & 四川省登山協会合同登山」

ト) H A Jとして未着手の天山山脈登山隊派遣準備

4) 登山許可申請と取得

ヒマラヤ高所登山分野での現状を分析しつつ、ヒマラヤ登山の大衆化の分野の声に応えると共に、未知と困難への挑戦の育成を視野にいれ、魅力ある高峰について各国へ登山許可申請を行う。

2. 野外活動事業

ヒマラヤ各国の魅力ある地域への踏査・トレッキング隊の派遣準備を行う。特に本年は本会創立35周年を記念したトレッキング隊をヒマラヤ地域へ派遣する。

IV. 定款第4条第4項にもとづく事業（機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修・各種会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動）

1. 機関誌発行事業

ヒマラヤ365～376号を発行。

2. 指導・啓蒙事業

1) 日本ヒマラヤ会議の開催

各理事と協議し条件が整い次第随時開催。

2) 地域ヒマラヤ集会の開催

各評議員と協議し条件が整い次第随時開催。

3) 定例会

毎月東京で開催。

4) 第24回「インド・ヒマラヤ会議」の開催

平成14年度隊報告と情報交換。

5) 第11回「中国登山研究会」の開催

平成14年度隊の情報交換。

6) 第10回「高所登山 事故と環境対策研修会」の開催。

東京にて開催。雪崩や高所順応、テイクイン、テイクアウトについて研修。

7) 壮行会

東京で開催、計画の発表と情報の伝達。

8) H A J 華甲望年会

12月7日（土）東京で開催。本年度2隊の登山隊と記念トレッキング隊の報告を行い本年中に還暦を迎える会員を祝い、行く年を惜しみ来る年を語る。

V. 定款第4条第5項にもとづく事業（その他、前条の目的を達成するために必要と認める事業）

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請

必要に応じて随時招請する。

2) 代表の派遣

必要に応じて随時派遣する。

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

来日したヒマラヤ登山関係者と随時懇談。

2. 国内関係団体との協調

1) 本会が発案し定着した日山協、労山、J A C と「登山4団体三役懇談会」をJ A C の幹事で行い情報交換と協議を行う。（7月）

2) 上記4団体で「登山共済」について協議、実現を模索する。

3) 国際山岳年事業への協力

4) その他、山岳関係団体等と協力・情報交換を行う。

3. 組織の整備

1) 執行体制の強化

3年後の役員改選期を目途に役員・評議員の若返りを考慮する。

本部近郊会員の協力を得て、非常勤スタッ

フを育成する。

2) 会員拡大の強化

イ) 一般会員の新規加入の一大キャンペーンを推進。

ロ) 終身会員への移行を推進。

3) パソコンへの活用の推進。

4. その他

1) 本会創立35周年記念行事を9月28日(土)に実施する。講演&祝賀会とトレッキングを予定。これに伴い関連書籍を出版する。関連費用については、会員向け資金カンパを実施して充てる。

2) 元本会常務理事山田昇氏の「遺稿・追悼集」発刊に協力する。

都道府県別会員数

(平成14年5月15日現在)

北海道	58(5)[16]	58(5)[16]	和歌山	2(0)[0]
青森	8(3)[0]		奈良	2(1)[0]
秋田	7(1)[0]		滋賀	5(0)[1]
岩手	7(1)[1]		京都	10(4)[1]
宮城	12(4)[1]		大阪	20(3)[1]
山形	20(5)[0]		兵庫	18(1)[1] 57(9)[4]
福島	24(7)[4]	78(21)[6]	岡山	4(1)[0]
栃木	21(3)[2]		広島	11(5)[2]
群馬	34(16)[7]		鳥取	5(0)[1]
茨城	13(4)[0]		山口	5(2)[1]
埼玉	55(15)[10]		香川	3(1)[0]
千葉	28(8)[4]		愛媛	5(4)[0]
神奈川	69(13)[12]	221(59)[35]	高知	5(1)[0]
東京	135(33)[24]	135(33)[24]	島根	0
山梨	9(4)[0]		徳島	0 38(14)[5]
新潟	3(0)[0]		福岡	27(5)[0]
富山	6(1)[0]		佐賀	1(1)[0]
福井	3(0)[0]		大分	0(0)[0]
石川	6(2)[1]		長崎	5(2)[0]
長野	22(6)[0]	49(14)[0]	熊本	2(0)[0]
静岡	6(0)[1]		宮崎	1(0)[0]
愛知	24(3)[1]		鹿児島	0
岐阜	8(2)[1]		沖縄	0 36(8)[0]
三重	4(0)[0]	42(5)[3]	国外会員	11(0)[3] 11(0)[3]

\* ( ) 内は終身会員数 総計 725(168)[96]  
 [ ] 内は女性会員 (前年度) 760(167)[96]

\* 夫婦会員36組(その内175は終身会員)。

平成14年度収支予算書

自 平成14年4月1日

至 平成15年3月31日

I. 一般会計

(収入の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入会金収入		( 300,000)	( 500,000)	(△ 200,000)
	入会金収入	300,000	500,000	△ 200,000
会費収入		( 8,500,000)	( 9,000,000)	(△ 500,000)
	通常会員会費	5,500,000	6,000,000	△ 500,000
	終身会員会費	3,000,000	3,000,000	0
事業収入		( 6,250,000)	( 14,100,000)	(△ 7,850,000)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	2,550,000	12,200,000	△ 9,650,000
	指導啓蒙事業	200,000	200,000	0
	機関誌発行事業	900,000	800,000	100,000
	出版事業	500,000	800,000	△ 300,000
	国際交流事業	100,000	100,000	△ 0
	その他事業	2,000,000	0	2,000,000
雑収入		( 300,000)	( 300,000)	( 0)
	雑収入	300,000	300,000	0
前期繰越		(△ 11,150,953)	(△ 6,079,501)	(△ 5,071,452)
	前期繰越	△ 11,150,953	△ 6,079,501	△ 5,071,452
合計		4,199,047	17,820,499	△ 13,621,452

(支出の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費		( 8,380,000)	( 8,700,000)	(△ 320,000)
	給料手当	5,000,000	5,000,000	0
	通信運搬費	250,000	400,000	△ 150,000
	電話費	150,000	200,000	△ 50,000
	消耗品文具費	50,000	50,000	0
	營繕備品費	0	0	0
	印刷製本費	650,000	800,000	△ 150,000
	図書費	50,000	50,000	0
	貸借料	1,800,000	1,720,000	80,000
	光熱水費	150,000	150,000	0
	会議費	30,000	30,000	0
	広報費	200,000	200,000	0
	雑費	50,000	100,000	△ 50,000
事業費		( 6,500,000)	( 14,400,000)	(△ 7,900,000)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	2,550,000	11,000,000	△ 8,450,000
	指導啓蒙事業	150,000	150,000	0
	機関誌発行事業	2,800,000	2,800,000	0
	出版事業	300,000	300,000	0
	国際交流事業	200,000	150,000	△ 50,000
	その他事業	600,000	0	600,000
次期繰越		(△ 10,680,953)	(△ 5,279,501)	(△ 5,401,452)
	次期繰越	△ 10,680,953	△ 5,279,501	△ 5,401,452
合計		4,199,047	17,820,499	△ 13,621,452

平成14年度役員等名簿  
(任期3年)

[顧問]

柴田 金之助 (80) 岐阜 再委嘱  
古原 和美 (79) 長野 〃  
遠藤 登 (71) 東京 〃  
稲田 定重 (61) 福島 〃

[会長]

酒井 國光 (63) 茨城 再委嘱

[理事長]

山森 欣一 (58) 東京 再任

[専務理事]

野沢井 歩 (37) 神奈川 新任

[常務理事]

八木原 罔明 (55) 群馬 再任  
尾形 好雄 (53) 東京 〃  
名塚 秀二 (47) 群馬 新任  
岩崎 洋 (42) 愛媛 再任  
中川 裕 (41) 東京 〃  
田辺 治 (41) 愛知 新任  
古関 正雄 (41) 神奈川 〃  
林 雅樹 (38) 京都 〃  
睦 好正 治 (35) 東京 〃

[理事]

大内 倫文 (54) 北海道 再任  
戸谷 薫 (54) 〃 〃  
名越 寛 (53) 広島 〃

(理事14名の平均年齢=46.4歳)

[監事]

保坂 昭憲 (54) 福島 再任  
中岡 久 (52) 埼玉 〃

[評議員]

佐藤 英樹 (54) 北海道 新任  
辻野 治子 (45) 北海道 再任  
松舘 正義 (58) 青森 〃  
丸山 芳雄 (63) 秋田 〃  
菅原 和明 (46) 山形 〃  
鈴木 正典 (40) 〃 新任  
志小田 美弘 (43) 宮城 〃  
小島 守夫 (62) 栃木 再任

長 繁夫 (51) 栃木 新任  
糸川 章 (50) 〃 〃  
後藤 文明 (37) 群馬 〃  
天城 敏彦 (55) 東京 再任  
青木 茂 (47) 山梨 〃  
西嶋 鍊太郎 (59) 石川 〃  
中村 正勝 (57) 長野 〃  
大西 保 (60) 大阪 〃  
樋上 嘉秀 (57) 大阪 新任  
今村 裕隆 (43) 山口 再任  
国沢 鎮雄 (73) 高知 〃  
下田 泰義 (51) 長崎 〃  
大住 恵子 (44) 在パキスタン 新任  
(評議員の平均年齢=52.1)

定款の一部改正について

ヒマラヤ諸国の登山関係の手續きの緩和が進み、ネパール政府も「推せん状」不要との状況になってきた。このことにより、日本からヒマラヤ諸国に入山する岳人の実態を把握することが困難になることが予想される。

正確な情報を基礎にした「ヒマラヤ情報」を内外に提供するためには、日本からヒマラヤ諸国の山々へ入山した岳人の情報を収集する必要がある。現状では「国内各地」の報道機関に掲載された情報を細かく収集する必要がある。

このため本会の地域情報収集を担っている「評議員」の定数を現行の「10名以上20名以内」から増加し「15名以上30名以内」に改正したものである。

[改正条項] 第10条第3項

評議員 15名以上30名以内

野沢井歩氏が専務理事に就任

総会終了後開催された「臨時理事会」で理事の互選によって野沢井歩氏が新しく専務理事に選出された。これが3年後の役員改選時に、同氏が事務局専従としてH A J運営の中心となることを期待しての決定である。

## ■ 寸 感 ■

HAJで永い間活躍された小林英見さんが、5月22日永眠された。92歳であった。小林さんは昭和51年～61年までHAJの理事として会の維持発展にご尽力が戴いた。70年ゴザインクンド、79年バイラブクンド、82年シャンドール峠越え、84スクーニャンなどのトレッキングに参加され、特に後者の2回は高齢にもかかわらず快よくリーダーを引き受けて戴いた。昨年久し振りにお電話を戴き「ヒマラヤ」を手数したいと相談されたのが最後となった。

昨年12月21日には、HAJ監事としてご尽力戴いた画家藤前江幾太郎さんも逝去され、又、HAJの古い頃の会員であった沼田眞さんも昨年12月30日に逝去された。本会も本年創立35周年を迎えるが土台を築いて戴いた皆様のご冥福を心からお祈り致します。(山森)

## 事務局日誌 (5月)

3日(金) 山田昇遺構追悼集発行協議(於沼田、

山森)

- 3日～5日 ニンチン・カンサ隊合宿(富士山)
- 9日(木) ヒマラヤ367号発送
- 18日(土) HAJ理事会(於HAJ事務所)  
HAJ通常会員総会(於、かんぽヘルスプラザ東京)  
HAJ臨時理事会(於同上)
- 20日(月) 役員等に就任、退任通知発送
- 21日(火) 関係団体へ新後員就任通知発送
- 27日(月) 東京集会(17名)

## ヒマラヤ No.368 (7月号)

平成14年6月10日印刷 14年7月1日発行  
 発行人 山森欣一  
 編集人 山森欣一  
 発行所 日本ヒマラヤ協会  
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7  
 萬栄ビル501号  
 電話 03-3988-8474  
 郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」

## 東京新聞の山岳書 東京新聞出版局

〒108-8010 東京都港区港南2-3-13  
TEL: (03) 3740-2674 (直)

**山小屋の主人の炉端話**

著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に炉端で語る一人話の取って置きのお話。

工藤隆雄 著

1500円

**すぐ役立つ 山の花学**

【飛騨高山の花博】として知られる著者の「山の花見輸入門書」

小野木三郎 著

1456円

**すぐ役立つ 山の気象と救急法**

山の気象遭難を回避するための天気判断と、事故対策に役立つ救急法を平易に紹介。

飯田睦治郎 著  
桜井博幸

1359円

**すぐ役立つ 記念日の山に登ろう**

人それぞれの記念日の日付と標高が一致する山はどこの山か。

石井光造 著

1300円

**山の百名水**

山岳写真歴30年、北海道、利尻から尾久島まで、山の百名水を取材。

山下喜一郎 著

1553円

**北アルプス やまびと物語**

「岳人」に3年余り連載した「山人探訪 男達の腹」に加筆、登山をより楽しむための二冊。

柳原修一 著

1456円

**北アルプス 山小屋物語**

歴史を刻んできた66軒の山小屋をめぐる山と人の物語。

柳原修一 著

1456円

**花と歴史の50山**

「花と歴史の山脈」の第2弾。花の山々を訪れた珠玉のエッセイ集。

田中澄江 著

1359円

**増補六十歳からの改訂日本三百名山**

60歳から13年間で三百座を踏破したスパーお爺さんの山行記。

田中三郎 著

1456円

**新・山靴の音**

遠慮をむかえた著者が山への思いと、山の仲間との交遊を綴る。

芳野満彦 著

1262円

**中高年登山 なんでも百科**

「登山に年齢はない」と主張する著者が、より安全により快適に登山を楽しむための、中高年登山の虎の巻。

福島正明 著

1500円

**さわやかに山へ**

世界的な女性登山家が、初心者レベルのヒマラヤを歩き、山を楽しく安全に下つてくると伝授する。

田部井淳子 著

1500円

**登山の運動生理学百科**

「どうしたら合理的で安全な登山ができるのか」を、ヒマラヤなど高所登山実績を踏まえて、分かりやすくまとめた。

山本正嘉 著

2000円

**山書叢策**

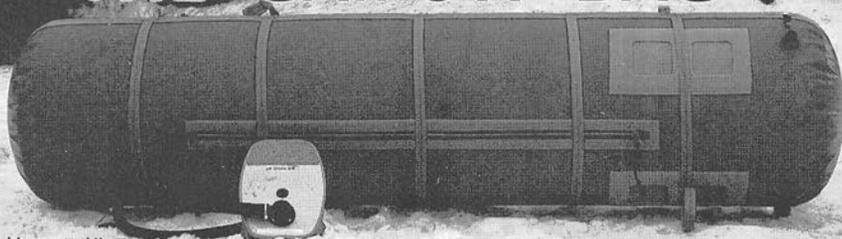
今までの数多く発行された山書何を読んだらよいか。そんな時の指針として「山人運動時」の好評。

河村正之 著

1500円

※東京新聞の販売店でも取り扱っています。※本体価格に消費税が加算されます。

# THE GAMOW BAG



高山病対策の必需品

## ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター  
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

## 遙かなる高みへ

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・中国・東南アジア・アフリカ・中南米～



◆格安航空券のご相談は◆

**キャラバンデスク**

(東京) ☎03(3237)8384 (直通)

(大阪) ☎06(6362)6060 (直通)

トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のバイオニア ■本

社/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1

岩波書店アネックス5F

☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396



**株式会社 西遊旅行**

■大阪営業所/〒530-0026

大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F

☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966

国土交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp>)

お問い合わせ・お申し込みフリーダイヤル  
(通話料無料)をご利用下さい。

☎0120-811395

# ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



## Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店 / 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3208-6601
- 新宿西口店 / 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03-3346-0301
- 神田登山店 / 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-6-1(タキビル2F) ☎03-3295-0622
- 神田本館 / 〒101-0051 東京都千代田区神田小川町3-10 ☎03-3295-3215
- 八王子店 / 〒192-0081 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426-46-5211
- 大宮店 / 〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町1-37 ☎048-641-5707
- 高崎店 / 〒370-0831 群馬県高崎市新町5-3 ☎027-327-2397
- 川越店 / 〒350-0045 埼玉県川越市南通町14-4 ☎0492-26-6751
- 甲府店 / 〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1 ☎055-221-0141
- 宇都宮今泉店 / 〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町1560 ☎028-639-9650
- 太田高林店 / 〒373-0825 群馬県太田市高林東町1386 ☎0276-38-0620
- 松本店 / 〒390-0874 長野県松本市大手3-4-24 ☎0263-36-3039
- 長野店 / 〒380-0825 長野県長野市末広町1356 ☎026-229-7739
- 新潟店 / 〒950-0087 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025-243-6330

- 新潟とやの店 / 〒950-0982 新潟県新潟市堀之内南1-16-52 ☎025-241-5134
- 仙台店 / 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022-297-2442
- 秋田広小路店 / 〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-5 ☎018-884-1771
- 盛岡大通店 / 〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎019-626-2122
- 札幌店 / 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西4-8 ☎011-222-3535
- 北十二条店 / 〒001-0012 北海道札幌市北区北十二条西3-5 ☎011-747-3062
- 伏古店 / 〒007-0861 北海道札幌市東区伏古一条4-1-45 ☎011-787-0233
- 平岡店 / 〒004-0874 北海道札幌市清田区平岡四条1-43-9 ☎011-883-4477
- 外商部(メールオーダー係) / 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3200-7219



ICI 石井スポーツ

事務所 / 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004